

令和6年度 学校評価表

長野俊英高等学校

建学の精神	質実・剛健・自主・独立
-------	-------------

分掌	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教務	ホームページのリニューアル、インスタグラムの開始	職員・生徒にとって過ごしやすい学校を作る	A	ホームページについては新しくなり、情報更新もこまめに行うことができた。 新課程最初の卒業生を送り出すにあたり、教育課程等さらに深く学ぶ必要性を感じた。	職員間で現在の学校や教育界の問題を共有し教研等でお互いが学び合う場を設定していきたい。
	「探究の日」の設定・実施	ラウンジ営業、カリキュラム、探究等変更点を積極的に見出し係で検討する	B	係を中心に実施を行ったが費用面、送迎面での問題が目立った。また、内容についても精査する必要があり職員の探究に対する理解を深める必要性を感じた。	系統別、コース別の特徴を出せるようにカリキュラムを検討する。 「探究の日」についても各系統、各クラスが計画的に実施できるよう促す。
募集 入試	入試形態の見直しを進める	①志願者増加のために、入試方法及び基準の見直しをする。 ②部活動を活発にし、活気ある学校にする。	A	①推薦基準の見直し（スポーツ推薦の基準再検討） ②奨学生制度を明確に提示し、学習意欲の高い生徒確保 ③2月入試面接をやめ、学力意識の高い生徒を募集	志願者数が定着できるようにする。
	俊英だよりの地域への発行、説明会の開催時期の変更	地域の方々や中学生に本校の良さを理解して貰う。	A	①学校説明会、部活動体験会、入試相談会の学校行事期間を、8月から毎月1回実施し本校の魅力を紹介した。 ②毎月、御幣川地区（1500世帯）会地区（950世帯）に回覧で俊英だよりを紹介した。 ③長野市、上水内郡の地区（50000世帯）のケーブルテレビにCMを放送した。	多くの方に本校の魅力を紹介するようにする。
生徒 指導	当たり前のことを当たり前に行うことができる、またはそのように考えられるようにすることを目指す。	本校教育方針の一つである『品性の育成』を実現するために、基本的生活習慣が身に着いた若者を育成する。	B	身だしなみ検査などに違反となる生徒は減ってきてはいるものの、特定の生徒が毎回違反となっている現状がある。また、制服を正しく着こなせていない生徒が一定数いる。教員による指導の温度差があり、それを生徒も認識してしまっている。	教員が一丸となって指導していく必要がある。そのためにも、指導しやすい雰囲気作り（状況作り・政策）が必要である。
	他人を思いやり、周りからどのように見られているか、周りが何を求めているか理解しようとすることを目指す。	生徒一人ひとりがマナー・ルールを守り、自主的・発展的思考のもとに人格の形成を目指すように努める。	B	挨拶などがしっかりできる生徒が多くなってきている。相手を思いやるという面での指導がもっと必要に感じる。	外部機関（警察等）とも協力しながら様々な視点から理解できるように指導を行っていく。

生徒会	生徒自治意識の向上	生徒の自治の力を高め、生徒とともに一層活気に溢れる長野俊英高校を目指す。	B	生徒との信頼関係の下、各行事で生徒主導の実施を促進し、自治の力を育成することができた。	全校生徒が互いの意見を協議する機会を増やし、自ら考え、更なる自発的な態度や課題解決能力等を身に付けたい。
	幅広い豊かな人間性の伸長	地域や企業などから信頼される活動を推し進め、新しい時代を自ら切り拓く人材を育てる。	B	募金活動などをはじめ校外活動に積極的に参加し、交流しながら信頼関係を築いていくことができた。	新しい時代を切り拓く人材教育のため、さらに多方面の活動を取り入れたり、経験をアウトプットしたり成果に繋げたい。
進路指導	多様な入試制度に対応しつつ、国公立大学や難関私大の合格	年内入試増加と共に生徒の希望も多種多様になり、それに対応しつつ、一般入試での国公立大学や難関私大への合格を目指していく。	A	例年に比べ大学への進学希望者が多く、年内入試の結果を見ても良好である。さらに一般入試でも良い結果が期待できる。	年内入試への対応が進路だけでは困難になってきている。志望理由書や小論文、個別の学力試験など、全教員の力を借りつつ進める必要がある。
	就職内定率100%を目指す	就職講座や企業見学を通し、生徒個々に適した企業を見つけ、採用試験に臨ませる。	A	就職希望者の内定状況は100%達成。また長野県警にも内定いただけた。	就職希望者の企業研究が浅い。7月の求人票が出る前から自身の強みを生かせる、またはやりたい仕事を見つけておくことが必要である。
教育相談	生徒を取り巻く環境の改善	生徒を巡る環境の改善を図るために、関係者の連携を密にする支援を行う。	A	概ね学年会や合同会議等へ参加し、事実関係の齟齬が生じないよう連携を取ることができた。場合に応じて保護者との連携も進めることができた。	職員会議等で情報共有の時間が確保される予定なので、有効使用できるようにしていきたい。守秘義務の扱いについて課題が残る。
	教師力の向上(傾聴力の育成)	教育相談に対する教員一人一人の意識を高めるために、情報共有と研修を企画する。	B	当事者を担当する教員や学年主任との連携・協議は行えた。ただ全教員への意識づけまでは浸透しきらなかった。	生徒情報の共有以外にも、研修を通して教師力向上につなげていきたい。オンデマンド研修などの積極的な活用もしていきたい。
清掃 営繕	少しでも気づいて自主的に清掃できるようにする	生徒が気持ちの良い環境で生活できるよう、自主的に清掃できるようにする	B	階段の汚れ等が大きな課題。最善策をもう一度考えていきたい	全校生徒が自主的に清掃できるようにする
	学校施設の充実	生徒が過ごしやすい環境にする	B	女子トイレの監督不足のため、使用の仕方に大きな課題があった。	清掃用具を増やす。また、階段の汚れを改善するための最善策を考えたい
図書館 運営	生徒に、図書館利用の権利を保障する	騒音や阻害行為の生徒には断固たる態度で臨み、静かな読書環境の維持に努める。	A	飲食物の持ち込みやスマートフォンの使用なども一部に見られたが、その都度注意ができた。	情報機器については学習等で必要な生徒もいるため、一概にダメとは言えない。「ルールを守る」という人間性を育てていくことが求められる。
	利用者数を増やす。	図書館だよりなどで、利用を呼びける。	B	図書館だよりの発行回数は、昨年よりも減ってしまった。	図書館だよりを積極的に発行する。また、利用者数調査も行っていきたい。
PTA	三位一体で参加しやすいPTA活動を目指す 交流会（懇親会）の実施	①三位一体の確立を浸透させるために、生徒、保護者、教職員が連携を取り、皆が参加しやすいPTA活動を作り上げる。 ②保護者一人一人が、PTA会員の自覚が持てるよう、活動内容の工夫と周知を図る。 ③地域に開かれた学校づくりのために、学校と地域が連携を図り、地域から愛され信頼される学校づくりの一助に貢献する。	A	PTA役員と教職員の連携がしっかり取れ、良い雰囲気でのPTA活動を行うことができた。 父母デーでは、講演会・海外語学研修報告会・学年懇談会・学級懇談会を実施し、参加者はあまり多くはなかったが、有意義な時間を共有することができた。 初の試みで、歴代PTA会長・現本会役員・学校職員を繋ぎ交流会（懇親会）を2度開催することができた。私学である以上、一致団結・一丸となって学校全体を盛り上げる貴重な会、場となった。	今後も三位一体となり学校全体を盛り上げるPTA活動を目指す。 PTA総会・父母デーでは、多くの会員の皆様が参加したいと思うような企画や内容を考えていきたい。 研修旅行や地域を含めた交流会など、PTAとして新たな交流の場を作っていきたい。
企画 運営	各分掌への投げかけ 職員会議での報告	将来の学校のために建設的な議論を行う。	A	たくさんの提案事項が出され、それについて意見を出し合った。その後、各分掌に投げかけて検討を進めてもらった。その結果、実現したものと実現しなかった事項があった。	今年度と同様に運営していきたい。 目安箱については廃止も視野に検討していきたい。

教育 課程	時間割の作成	高等学校で習得すべき事柄を、計画立てて履修できるように配列する。	B	将来にむけた自由な進路選択を提示する	特色のある授業の組み合わせを考える。
	現カリキュラムの改善を検討	多種多様な入試制度や企業が求める基礎学力の習得に即したカリキュラムを目指す。	B	すべての教科から現カリキュラムの課題を吸い上げるまでは至らなかった。	授業が有意義に行われるよう、引き続き最適なかリキュラムを検討していく。
学校 保健	健康診断のスムーズな進行	検診がスムーズに進むように工夫する。	A	先生方のご協力により、スムーズに進行することができた。	引き続き先生方にご協力いただき、スムーズに検診を行えるようにしたい。
	感染症拡大防止の意識向上	ハンカチ、ティッシュの携帯を励行することにより、感染症の拡大防止への意識を高める。	B	保健委員会との連携は上手くいかなかったが、保健だより等で感染症拡大防止への意識を高めることができた。	継続的に感染症予防についての呼びかけを行い、感染症拡大を最小限に抑えられるようにしたい。
国際 地域 交流	学校説明会での特設説明会の実施	海外短期研修（アメリカ）の参加者を増やす	B	7月4名参加、3月3名が渡航準備中。1年生の参加も多く、下の世代ほど留学プログラムに関心のある生徒が増えてきている印象。一方で説明会には参加したが、申込に至らなかった生徒も参加者の数と同じくらいいる。多くは費用の問題と、目的意識の欠如によると思われる。	アメリカのプログラムは費用の分割納入が可能になったので、説明会の際にこの点を盛り込む。来年度は7月のプログラムは4月に、3月のプログラムは11月に説明会を実施する。年間で8-10名参加が目標。今後はマレーシアなどのプログラム構築も検討する。
	アメリカから留学生を受け入れ交流	留学に関心の高い生徒の入学を増やす	B	学校説明会で2回、説明と個別相談の機会を設けてもらい、関心の高い保護者や中学生と直接話げできた。実際の入学にどれくらいつながったかは結果待ち。12月の個別相談では、併願を専願に変えようかと考える生徒・保護者も4-5組いたので、留学プログラムに生徒・保護者の関心を惹きつける要素は大きいと実感する。	進学、および短期研修の留学相談を常に受け付けられるようにし、海外進学（アメリカだけでなく英語圏全般）に関心のある生徒のサポートをする。学校説明会では積極的にアピールできるようにする。将来的に国際コースが設置できるように英語科の先生と協力できればと考えます。